

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375601016		
法人名	社会福祉法人 嘉祥福社会		
事業所名	グループホームあま恵寿荘		
所在地	愛知県あま市二ツ寺西高須賀2番地		
自己評価作成日	平成22年11月15日	評価結果市町村受理日	平成23年 3月 2日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2375601016&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成22年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

複合施設の中にあることを活かして、併設施設の利用者の方と交流ができるような行事を行い、充実した生活が送れるよう企画している。例えばお正月には“チンドン屋”を職員、利用者が一緒になって行い、各階の併設施設を回り披露したこともあった。行事にしても日常の生活にしても、利用者の主体性を尊重し、できる限り利用者から何かを行ってもらえるように声掛け・援助している。また、それぞれの利用者の役割についても職員主導でなく本人が生活の中で自然と行えるような、利用者同士でも、職員と利用者でもよい関係が築けている。その他、複合施設である点から、ADL低下等にも柔軟に対応ができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者や職員とのコミュニケーションが深く、お互いの絆を感じることのできるホームであった。印象的な光景は、利用者の笑顔である。リビングでは利用者が集い、職員と自然な会話を楽しんでいる。ホーム内には、行事の写真や利用者の手作り作品が飾っており、皆を楽しませている。職員は、「利用者に楽しい思い出を残してあげたい。」との思いから、お正月・お花見・お出かけなどの支援を行っている。ホーム独自の行事の他に、施設全体行事があるために楽しみ事の機会も多い。共有スペースで行われる月に一度の喫茶では、売店の販売・他の利用者との交流機会にもなっている。施設全体で行っている取り組みが、地域にまで拡大できるような発展を期待したい。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしさ」に共感し、地域の中で普通の生活を送って頂けるよう支援するという目標に少しでも近づけるよう、各利用者にあった援助方法を職員それぞれが考え実践するよう努めている。	職員の思いをまとめて、理念を作成している。普段の生活の中で、本人の気持ちを優先して支援する姿勢を大切にしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	広報等で地域の行事等の情報を得て参加できるようにしている。また週1回ボランティアの方に来てもらう機会を設けたりその方のお子さんが遊びにくる機会もあり、交流を深め利用者の方も楽しみにしている。	地域行事として稲沢の福祉祭りに参加したり、話し相手のボランティアを受け入れたりして、地域交流の機会を広げている。広報誌で地域の情報収集を行うなど、積極的に生活範囲を拡大できるよう努めている。	地域交流の機会を、法人施設内交流から地域へと範囲を拡大することで、地域の重要な社会資源となることを期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて役所や地域包括支援センターの職員、民生委員等と何かあれば連携がとれるように呼び掛けている。また入所相談や施設行事への参加も呼びかけている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日頃の様子や各行事の参加報告、利用者の状況について報告し、各関係職員、家族より意見・質問等聞くようにしている。	会議の参加者が少なく、会議の開催が不十分である。会議内容は、行事報告や利用者の状況報告を主に行っている。	会議の参加メンバーとして、利用者本人や地域密着型サービスの知見者として他のグループホームの職員などへの働きかけを行い、積極的に協力者を増やすことを望む。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所へは日頃から何かあれば連絡を取り、都度担当者に相談をし、協力関係を築くようにしている。またできる限り運営推進会議にも参加をお願いしている。	運営推進会議に市役所、包括支援センターの参加があり、介護現場の状況を報告している。継続的な運営推進会議への参加を依頼しており、連携を図れるように努めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	目に見える拘束だけでなく「そっちへ行ったらダメ！」や、「ここにいて！」などの言葉かけでの拘束も行ってしまわないように職員同士気をつけている。	グループホームから同建物内のデイサービスや特養施設など、複合施設全体に行き来ができる。玄関横の事務所では、出て行く気配を察して見守り、安全に配慮している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で高齢者虐待防止に努めており、研修などの参加で理解を深めるよう努めている。また、苛立ちが感じられるような発言等から職員のストレスに気付けるよう注意し、虐待へとつながらないように早めにフォローすること努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で理解を深めるように努めているがまだまだすべての職員の理解までは至っていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時には書面や口頭にて家族への説明を行い、質問等にも応じている。また、ケアの中で利用者の苦情等に関してもその都度職員間で話し合い対応している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中でご家族と役所の方と話しをする機会を設けたり職員と家族は日頃から面会時等に意見を言えるような関係づくりに努め、その意見を運営へと反映させている。	訪問時や家族会・電話など、家族が気軽に意見を出せるようコミュニケーションを図っている。毎月の便りで、利用者の指絵や直筆の言葉を伝え、職員が本人の様子をコメントして家族の安心につなげている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員の意見を直接聞くなどし、また職員も管理者に対して日常的に相談を行っている。	主任が職員から勤務体制などの意見を直接聞いており、現場の意見を把握することができている。事業所側は異動に対する職員の希望を個別に確認しており、極力意向に沿うような配慮がある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度より勤務評定を試みたり、アンケートをとったりと各自が自分の仕事に対して見直し考える機会を持ってもらいまたそれを共有するように努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GH協会の研修や毎回の全体会議で内部研修の機会を設けるようにするなど、研修の機会を確保している		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等の参加にて同業者との交流を図り、意見交換している。ただ、頻繁にはできていない状況である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できる限り声掛けを頻繁に行い、独りになり不安な気持ちになることのない様に努めている。また食堂等で座る場所についても他利用者との交流が無理なくできるよう配慮している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所契約の際にも家族の意見や要望等に耳を傾け、入所後も家族への電話や手紙にて利用者の状況についてその都度伝えるように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どんな支援が必要なのか本人や家族等との面談の中で見極め、居宅ケアマネージャーや併設施設相談員等と相談・連携を図り対応するように努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	強要するような形にはならないよう気をつけできる限り家事等について利用者に行ってもらえるようにしている。また各行事についても利用者に昔のやり方など聞きながら一緒に行うようにしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には常に声をかけ利用者の生活について話し、相談をして家族と利用者の関係が途切れないように努めている。また月1回通信にて利用者の状況を伝え面会が遠ざかっている方にも面会をお願いをするなどしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設施設から入所された方など仲の良かった人との関係が途切れないようにGHへ来てもらったり、こちらから訪れたりしている。	併設の特養施設に入所した方と、馴染みの関係が継続できるように複合施設内を行き来して交流している。家族が、以前住んでいた近所の方を連れて訪問する事例がある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係についてはできる限り過剰に職員が介入しないよう注意しながらも孤立していることがないよう職員が間に入る。トラブルについても暴言等が出る場合には間に入り関係づくりを支援するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて相談にのり併設施設へ入所になった利用者に対しては、時々様子を見に行ったりし、行事の際には家族へこちらから声をかけるなどのフォローに努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り利用者の日々発する言葉や表情等の希望や意向を把握するように努めケアに反映するようにしている。しかし、家族と利用者との思いや意向とのずれやケアとの狭間で悩むことも多々ある。	担当職員が、表情などから本人の希望や意向を感じ取っている。また、時間ごとに利用者の言われたことや、訴えのあった内容などをケース記録に記載して、小さな思いの把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際にケアマネージャーや施設を利用されていた場合は施設職員に事前に状態やこれまでの生活について聞き、把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の時系列でのケース記録にて利用者の心身状態や思いを記録し、そのケースの見直しにより今現在の状態を把握し共有するように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のケース記録にて利用者の日々の細かな状況を把握し、月1回見直しを行って全職員にてカンファレンスを行っている。その後ご家族・本人に説明・相談といった流れの中で介護計画を作成している。	利用者のケース記録を毎月20日ごとにまとめ、その内容を職員でカンファレンスしている。課題やニーズの変更が起こった場合には、ケアプランを見直して利用者の現状に即した介護計画を作成している	チームケアを重要と考えれば、ケアプラン作成には家族の協力なしには困難であろう。家族の協力をケアプランに盛り込み、家族参加型のケアを応援したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録を毎日時間ごとにその都度気づいた事や職員間で共有した方が良いことを記入しその情報をもとに介護計画の見直しをおこなっている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設の中にあり、利用者の状態に応じて、例えば入浴について機械浴の使用を行うなど柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設行事の中で地域のボランティアに慰問を行ってもらったり、中学校の体験学習の場として交流をしている。また消防についても施設全体で防災訓練などを通して支援をしてもらっている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の希望は家族に確認しているが要望として当施設の協力機関が多い。またかかりつけ医とは月2回の往診に限らずその都度連絡をとり適切な医療を受けられるよう支援している。	月2回の内科の往診と、義歯の入れ替えなど必要に応じて歯科の往診がある。眼科の通院は家族の協力を基に行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から併設施設のNsがグループホームの利用者についても気にかけてくれている為、その都度相談・助言が受けれる関係が築けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関については日ごろから利用者の状態について往診等を通じて情報交換を行いいつでも相談できる関係がつくれている。またその他の病院へ入院の際もケースワーカーと随時連絡をとり早期に通院できるよう関係づくりに努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては体制は整っていないがその都度利用者のADLの状態に沿って家族や協力医療機関と相談し話し合っている。	ADLが変化した場合には、家族と相談を重ねてホームの方針を共有している。家族の強い意向から、重度化してもホームでの生活を支援している事例もある。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にてそれぞれの状況に応じた応急処置について学んでもパート等すべての職員に対しては不十分な部分はある。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体で日中・夜間とそれぞれを想定した避難訓練を定期的に行い、地域の消防署立ち会いのもと行う時もあり助言を受けている。	防災管理委員会が主催して避難訓練を行っており、施設全体での危機管理に力を入れている。災害時に即座に利用できるよう、目に付く場所に「防災頭巾」を設置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対しては年配者として尊重し、日頃から職員同士で言葉かけや対応に気をつけている。また本人のペースを尊重して急がせたり職員主導にならないよう注意している。	全体研修では、スピーチロックや虐待などについて学ぶ機会を設けている。ことわざを解説する利用者に対し、聞き流さずに、人生の先輩への敬意を持って対処する職員の姿勢が感じ取れた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り意志や想いを汲み、希望に応じられようように努めている。意思表示が難しい利用者に関しても表情や行動から汲みとるよう努めているも迷う場面もたくさんある。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にしよう心がけており、またこちらから何かをお願いする際も必ず本人に「～できますか」など問いかける形で声掛けをするようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ本人に服を選んでもらうよう声掛けし、また職員と一緒に選ぶことで会話の中でおしゃれが楽しめるように努めている。行事の際に希望のある方には口紅を塗ったりしおしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には利用者の食べたい物の希望をとり献立を考え、みんなで祝いをしている。また日々の食事についても調理や付けわけ、食事後の皿洗い等できる限り利用者と職員と一緒にできるよう努めている。	訪問時は、鍋を囲む会の日であった。味見をしたり、つみれを一口大にして鍋に入れるなど、積極的に利用者が食事作りに関わっていた。食堂では笑い声が絶えず、賑やかで温かい。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の食事摂取量については毎日チェックし水分摂取量についても少ない人にはチェック表にて水分量を把握している。あまり飲んでもらえない方には居室にいつでも飲めるようペットボトル(冷水)を用意したりしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕については職員がそれぞれの利用者の状態に合わせて介助・見守り・声掛け等をして口腔ケアが行えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレへ行く回数を増やし、パッド内での排泄のないよう介助している。また、リハビリパンツから日中のみパンツへ変えるなど、利用者が自身が意識的にトイレへ行けるように努めている。	尿意の訴えのない人もトイレ誘導を行う、リハビリパンツから日中はパンツに変えるなど、トイレで排泄できるように支援している。自立に向けた支援により、残存機能を維持した支援を大切にしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜等の繊維質な食べ物を促したり、お腹のマッサージをしたり出来る限り薬に頼らないよう取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は夕方～夜にかけては職員の人数上でできていないが基本的には日中であればいつでも入浴してもらえるように対応している。また入浴の声掛けについても無理な声掛けにならないよう心がけている。	一日おきに入浴できるように声かけしているが、希望があれば毎日でも入浴できる。自分で入浴可能な利用者へも、洗髪ができているか気遣い、清潔に保てるように支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間については特に決めておらずそれぞれの利用者の習慣に合わせている。日中についても利用者のペースで居室で休んだりソファーに腰かけうたた寝するなどしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	回診時に必ずDrに確認した薬の本等でも調べ副作用等に注意している。服薬管理についても利用者ごとに食事後に手渡しする等確実に服薬できるように注意している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者がそれぞれ役割と行って行っていることが継続してできるよう押し付けにならないような声掛け等配慮している。また職員が利用者に対していつも感謝の言葉かけを忘れないようにし、快く役割をこなせるように努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や地域の福祉祭りに出かけるなど外出はしているが日常的な外出はなかなかできない状況である。	正月は初詣に行き、新年を楽しんだり、花見をするなど、気候の良い季節には外出の機会を増やしている。近くの公園にお弁当を食べに行くなど、地域に出かける支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布の管理が難しい利用者の方でも普段は預かり売店等で購入する際には本人に財布を渡しお金を使用する機会を設けている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも本人の希望があれば電話も手紙もやり取りができるよう援助するが今のところ直接ではなく毎月の通信の中にメッセージを家族宛てに書いてもらったりしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お雛様や、七夕、クリスマスなど季節にあった飾り付けを行うようにしている。また食堂・廊下には行事の写真を飾るなどして利用者同士会話が弾むように工夫している。また大きな音がでないように気をつけている。	食堂は中庭に面しており、明るく開放感があって季節の花も楽しめる。廊下には利用者と職員で作った花餅などの作品が飾っており、共用空間を明るくしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事をするテーブル席以外にソファをもうけ仲の良い利用者同士で自然と過ごせるような空間づくりに努めている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使っていた家具を持ち込まれている利用者もあり、配置等についてもできるだけ本人の使いやすい様に利用者とともにしている。	居室内には、家族の協力を得て親と一緒に写した思い出の写真を飾り、自宅での使い慣れた馴染みの家具を配置して、居心地のよい空間を作っている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同トイレには大きく貼り紙をしたり、居室についても何か目印をつけるなど分かりやすいように工夫している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	ケアプランについて家族があまり関わっておらず、内容についてもグループホーム内でのケアプランにとどまりがちになっている。	ご家族にもケアプランの実現にむけて参加できるようなプラン立てが行えるよう家族参加の行事等を増やせるようにする。	ご家族が気軽に参加できるような行事を催したり普段の生活を少しの時間でも 一緒に過ごしてもらえるように機会を作り、家族と利用者・家族と職員の関係がもっと密になるように努める。	6ヶ月
2	4	運営推進会議の参加者がいつも決まったメンバーになってしまっていることもあり、現状報告にとどまってしまう。	地域の人などにも参加してもらい地域交流のきっかけが作れるような運営推進会議を目指す。	現在来てもらっているボランティアの方や社協の方等に来てもらい慰問等につなげていけるようにする。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。